

ボナンタゴン

アピカホールから
あなたに

Vol.64

2012.4月-6月



アナ・ヴィドヴィチさん

■文化事業一覽表(別紙)

森は奏でる
音楽の話・輪和Wa

うかわ先生の
おながく談義

七月十四日開催

アピカパースデー企画
和楽器の音色と
あそぶ

七月十三日開催

第119回
しほへんコンサート
和楽器オーケストラ
あいおい

第118回
しほへんコンサート
アナ・ヴィドヴィチ
ギターリサイタル
六月二十九日開催

西脇市立音楽ホール

Aplika
アピカホール

6月29日(金) 第118回しばざくらコンサート

アナ・ヴィドヴィチ ギターリサイタル

アドリア海の真珠・クロアチアは、美しい自然と豊かな文化遺産を誇り、近年日本においても人気の観光地として注目を集めています。そのクロアチアの小さな町カルロヴァツで1980年に生まれたアナ・ヴィドヴィチは、エレキ・ギタリストの父親、そしてそれぞれギタリストとピアニストである2人の兄の影響を受けて、5歳からギターを始めました。その才能はすぐに開花し、7歳で初めての演奏会、13歳にして史上最年少記録でザグレブ音楽院に入学するなど、早くから“天才少女”として話題となり、母国の著名な映画監督によるテレビ・ドキュメンタリーも制作されたほどです。

(幼少時の映像がご覧になれます。

<http://www.youtube.com/watch?v=0E0oD9F2TVQ>)

その後、タレガ国際コンクールを始めとする数々の主要な国際コンクールで次々と優勝をさらい、10代のうちに単身アメリカ・ボルチモアのピーボディ音楽院に留学しました。名ギタリスト、マヌエル・バルエコの薫陶を受け2003年に卒業、以降、現在はボルチモアを拠点に世界中で演奏活動を行っています。初来日は2004年。東京・武蔵野公演の模様がNHK・BSで放送され、その美しい舞台姿、華麗なテクニックや奥深い表現力、また、非常に珍しい3本の指による安定したトレモロ奏法など(本人曰く、自然に身につけたとのこと)、ギター音楽愛好家の間で広く知られる存在となりました。

その後も順調に来日公演を重ね、『現代ギ

ター』誌や『ギター・ドリーム』誌などの表紙も度々飾っています。『現代ギター』2011年新年号では、日本で最も人気の高いギター奏者の一人、村治佳織さんとの“美女対談”も企画・掲載されました。また、クラシック音楽愛好家向け雑誌『音楽の友』誌の特集“2012年はこれが聴きたい!”の器楽・室内楽部門にピックアップされるなど、ギター音楽のジャンルを超えて日本国内での人気も急上昇を続けています。

過去4回の来日公演では、北海道から沖縄に至る各地でリサイタルに招かれています、意外にも、関西地区での公演は、2010年にJ R東海主催により開催された京都・上賀茂神社および京都コンサートホールでのコンチェルト演奏会に登場した2公演のみなのです。(その折には、祖国クロアチアを代表する名門「ザグレブ・ソロイスツ合奏団」と16年ぶりに共演し、満員の聴衆をうっとりさせました。)

関西の熱心なファンの方々は、「ヴィドヴィチの演奏がどうしても聴きたい!」と、ヴィドヴィチの公式ホームページ上で日本公演の情報を仕入れるや否や、アメリカのマネージャーや日本の招聘元へ盛んに問い合わせを入れ、遠路、東京や名古屋でのリサイタルへお出かけになったようです。

ついに今回、満を持しての関西地区でのリサイタル初登場となります!

“ギターの妖精”が紡ぎ出す美しい音色に触れる絶好のチャンス、ぜひお聴き逃しなく!

7月13日(金) 第119回しばざくらコンサート

和楽器の魅力を広く伝えることを目的とし、東京藝大の卒業生を中心に2001年に結成。

和楽器オーケストラあいおい

日本音楽の歴史

和楽器オーケストラあいおい代表 松崎 晟山

和楽器は、日本で生まれたもの、大陸から輸入されたもの、その二つが融合して出来たものが、それぞれ進化して現在に至ります。全国各地の祭事では、古来より伝えられた太鼓や笛の音が奏でられ、また、平安時代に輸入された雅楽が、永い歳月を経た現在も演奏されています。各種芸能の中では、歌や踊りの伴奏として、和楽器は欠かせない存在でした。邦楽は演奏する側も、聴く側も、時代により変化してゆき、貴族、武士、民衆と、それぞれのライフスタイルに合わせて異なる音楽ジャンルがあるのも特徴的です。

明治時代を迎えると、西洋音楽の影響を大きく受け、西洋的な音楽様式のもの生まれてきます。また、近代では逆に東洋的な神秘性や思想感への憧れから、音楽の素材として、和楽器の音色を用いる洋楽の作曲例もよく見

られます。西洋のオーケストラと和楽器の協奏曲や、和楽器によるオーケストラ作品も作曲され、より壮大で華やかな音楽世界が広がっています。現代に於いて、和楽器は学校教育や映画、TV等で数多く見聴きする機会が増えてきた為、一般に身近なものになってきました。コンサートやCD等で聴くのも良いですが、是非、ご自身で手にとって音を奏でてみて貰いたいと思います。



7月14日(土) アピカ・バースデー企画(7月23日開館記念日)

和楽器オーケストラあいおい

和楽器の音色とあそぶ

ホール全体を使って和楽器の魅力をお届けします。

<ミニコンサート>

アピカ15周年記念合唱団(混声)との競演「ふるさとの町〜西脇讃歌〜」を含む、和楽器オーケストラあいおいの公演をお楽しみください。

と き	13:00開演(12:30開場)
入場料	中学生〜一般 1,000円
	5歳〜小学生 500円

<楽器体験ワークショップ>

箏、三味線、尺八、琵琶、小鼓、篠笛など様々な和楽器に触れ、音を出してみませんか?

「和楽器オーケストラあいおい」は、様々な流派の奏者で編成されているので、楽器体験のほか、流派による奏法や楽譜の違いなど、気軽にお尋ねいただける機会です。初心者から経験者までお楽しみください。

代表的な楽器紹介



琵琶 -BIWA-

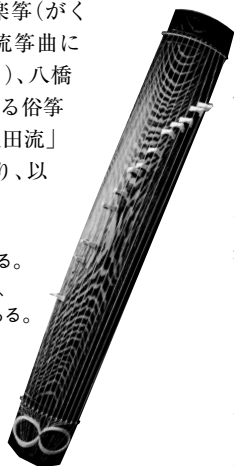
琵琶は八世紀頃、雅楽に用いる楽琵琶(がくびわ)、盲人たちが使用した荒神琵琶(こうじんびわ)の二種類が渡来したとされる。楽琵琶には独奏曲もあったが、曲の伝承が絶えるとともに、雅

楽における管絃合奏の楽器としてのみ使用されるようになる。また、荒神琵琶の方は筑前盲僧琵琶(ちくぜんもうそうびわ)と薩摩盲僧琵琶(さつまもうそうびわ)とに分かれた。そして、中世末期から江戸初期にかけて薩摩琵琶が誕生し、明治中期になって筑前琵琶が生まれた。

箏 -KOTO-

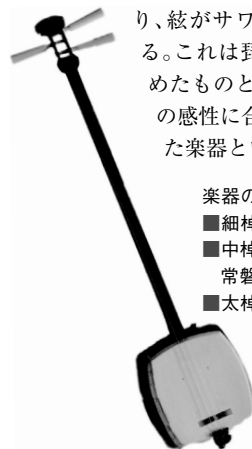
元来、箏(こと)は中国から伝わったとされている。現在は、雅楽用の楽箏(がくそう)、室町末期成立の筑紫流箏曲にもちいる筑紫箏(つくしごと)、八橋検校以降の近世箏曲にもちいる俗箏(ぞくそう)がある。流派は、「生田流」と「山田流」の二大流派があり、以下のような違いがある。

- 龍尾の糸の掛かり方に違いがある。
- 琴爪の形状は時代的変遷があり、生田流が角爪、山田流は丸爪である。



三味線 -SHAMISEN-

三味線の起源は、中国の小型の楽器「三絃(さんしえん)」と言われ、14世紀末期に琉球に伝来し、1562年に琉球の三線(さんしん)が堺商人によって本土に入ったのが初めとされている。その後、三線は琵琶法師と呼ばれる盲人音楽家によって使われ始めるが、三味線には三線にはない「サワリ」という仕掛けがあり、絃がサワリに触れて豊かな響きをする。これは琵琶の奏法から独特の音を求めたものと見られ、日本の風土と日本人の感性に合わせ、創意工夫されて生まれた楽器といえる。



楽器の種類

- 細棹(長唄、端唄、荻江節、河東節 他)
- 中棹(地歌、一中節、宮園節、新内節、常磐津節、清元節 他)
- 太棹(義太夫節、浪曲、津軽三味線 他)

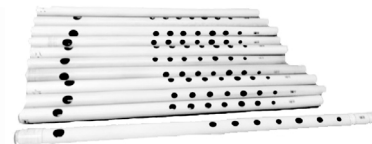
尺八 -SHAKUHACHI-

尺八は、何千年ものむかし、中央アジアで作られた竹やアシの縦笛が始まりと言われる。この笛が、改良されながらインド・中国と渡り、奈良時代、今から約1300年前に日本に伝来し雅楽の楽器として用いられた。さらに、少しずつ改良され現在の尺八になる。材質は、竹(真竹)で、根から上、数十センチを使う。名前の由来は、長さから来ており、その長さが、唐の時代の単位で一尺八寸(約43.7cm)あるということで「尺八(しゃくはち)」と呼ばれるようになった(他説あり)。現在の尺八の長さは、日本の尺貫法の単位で一尺八寸(約54cm)である。



能管 -NOHKAN-

能や歌舞伎で用いられる日本独自の横笛。材料は竹(真竹、篠竹など)。雅楽に用いられる龍笛と良く似ており、指穴の数、歌口の位置、籐や樺を巻いた仕上げなどは龍笛を踏襲している。龍笛との違いは、唄口と指穴の間に「喉(のど)」と呼ばれる細い管(大抵は一回り細い竹)が入っているのが特徴で、この構造により西洋音階とは違う独特の音律になり能楽特有の独特の旋律が生まれる。「ヒシギ」と呼ばれる甲高い音は特徴的である。



篠笛 -SHINOBUÉ-

篠笛はその篠竹に孔(あな)を開けて中に漆(うるし)を塗っただけの簡素な笛。篠笛が奏される代表的なジャンルとして「祭り囃子」、歌舞伎音楽として「長唄」、「常盤津」、「清元」、「義太夫」、などがあり、その他「地歌」など三味線音楽でも奏されることがある。



小鼓 -KOTSUZUMI-

小鼓は、木部の中をくりぬいた「胴(どう)」を二枚の皮ではさみ、「調緒(しらべお)」という麻紐でくみ上げている。両端に当てた革面を締める縦調(たてしらべ)、その中間を横にくくる横調(よこしらべ)がある。小鼓は、音の高さ、大きさ、拍などにより「ボ」「プ」「タ」「チ」と表現される柔らかく丸みのある音色が特長で、左手で横調を締めたり、緩めたりして右手で打つ。また、革に適度な湿り気が必要のため、奏者が革に息を吹きかけたり、唾液で湿らせたりする。革は古いほど良い音が出ると言われ、何年も打ち込んで使われて本来の音色になる。その年月は百年を軽く超え、何世代にも受継がれ、その響きを作る。

太鼓 -TAIKO-

日本の膜鳴楽器を、〈つづみ〉と〈たいこ〉とに区別し、前者は、胴のくびれたもの、あるいはおもに桴(扶膜・ばち)を用いず手で打つものの総称とし、それ以外のものを〈たいこ〉と総称している。日本の太鼓は、ほとんど桴で打奏される。太鼓類を用いる音楽は、雅楽、能の囃子、歌舞伎の囃子、民俗芸能の囃子とあり、後者においてはその種類も多い。ほかに、神道、仏教などの宗教においても、その行事の具として太鼓類を用いる。



知らずに使っていた邦楽用語

●調子が悪い

箏や三味線のチューニングをする事を「調子を取る」と言いますが、演奏時に音程が合わない事を調子が悪いという。

●おつな〜、甲高い声

邦楽では高い調子を甲(かん)というのに対して、1 オクターブ低い音を乙(おつ)といいます。「甲高い声」というように、甲は高く鋭く響くのに対して、乙は低音の魅力、渋く味わいのある音を意味する。

●メリハリ

「メリカリ」からきた邦楽用語で低い音を「沈り(めり)」、高い音を「浮り(かり)」と呼び、主に尺八等の管楽器で用いられる。



二人の例外的な演奏家ー古澤巖さんとアナ・ヴィドヴィチさんー

2月25日にアピカホールで、ヴァイオリンの古澤巖さんとライツ室内管弦乐团によってヴィヴァルディの『四季』が演奏されました。バロック時代の音楽であるにもかかわらず、チェンバロが入っていないという常識はずれの編成にとまどわれた方も多かったのではないのでしょうか。かくいう私もその一人で、聴く前は、「古澤さんは一体何を考えているのだろう」と訝っていたのですが、実際に聴いてみるとナルホドと納得がいくところがありました。

これは私の勝手な推測ですが、チェンバロを入れないことによって、古澤さんは、今から約300年前の大昔に書かれた『四季』を、現代に生きる私たちに直接かかわりのある音楽として蘇らせたかったのではないかと……という思いがしてきたのです。チェンバロが入っていると、どうしても美術館で古の名画を見ている感じになってしまって、現代の私たちの生活感情とは直接かかわりのないものを、ありがたく鑑賞しているというふうになってしまいがちです。生命力と躍動感に満ちた古澤さんの『四季』を聴かれた方の中で、この曲を300年前に書かれた古臭い音楽というふうに感じた方はそれほど多くはなかったのではないかと推測されるのですが如何だったでしょうか。

このような演奏に対しては、賛否両論があることでしょう。特に、様式うんぬんにこだわる頭の固い音楽学者や音楽評論家たちは、楽譜を勝手に改変したりして怪しからぬと腹を立てるかもしれません。私は、しかし、あ

えてこのような演奏を行われた古澤さんの勇氣に拍手を送りたいと思います。古澤さんは、『ボナンタゴン』Vol.62に寄せてくださった文章の中で、「楽譜はレシピにしかすぎないのだ」と書いておられますが、確かにその通りで、このレシピから私たちが食べておいしさと満足できる料理が作れるかどうかは、ひとえに料理人の腕そして才能に懸かっているのです。

食べて感激できる料理が作れるコックさんがきわめて稀のように、聴いて感激できる演奏ができる音楽家もきわめて稀です。もし、古の音楽に生命を吹き込むことのできる古澤さんのような例外的な存在がいなければ、クラシックの音楽は、死んだも同然の音楽、博物館のお蔵入りの音楽になってしまうことでしょう。

もう一人の例外的な存在（とおぼしい）人は、6月29日にアピカホールでギター・リサイタルを開いてくださるクロアチア出身のクラシックギター奏者、アナ・ヴィドヴィチさんです。彼女の演奏会がアピカホールで行われることを知って、どのような演奏なのだろうとYouTubeで聴いてみたのですが、とても驚きました。正直なところ「ルックスの良い演奏家=演奏はそれほどでもない」という先入観を持って聴き始めたのですが、とんでもない思い違いであったことが判明しました。とても驚いたので、彼女のCDやDVDを立て続けに買って聴いてみたのですが、驚きは深まるばかりです。

彼女の写真を見られた方はお分かりのよう

に、美人でとてもかわいい人なので、チラシの宣伝文句などには《ギターの妖精》などといった言葉が踊っているのをよく見かけます。しかし、このように形容されても、恐らく彼女はあまり喜ばないのではないのでしょうか。なぜなら、彼女が志向しているのは、そのような浮ついた世界ではなく、音楽の本質を極めたいというもっとも高い次元の世界であるように思われるからです。《本格的なギタリスト》あるいは《本物のギタリスト》と呼ばれれば、多分、彼女は喜ぶことでしょう。彼女のCDやコンサートには、必ずと言っていいほどJ.S.バッハの作品が含まれていることも、彼女の真摯さの現われであり、また本物の芸術を見極める識別眼の確かさの一つの証であるといえるでしょう。

彼女は、多分、いつも心の中で歌いながら演奏しているのではないかと思います。聴く人が強く惹き付けられ引き込まれてしまうのは、音の美しさもさることながら、音楽の根元である歌が彼女の演奏の大本にあるからではないかと思われまゝ。YouTubeで彼女が6歳の時にギターを弾いている姿を見ることができそうですが、驚かされるのは、6歳であるにもかかわらずその演奏には歌心が満ち満ちているという点です。その演奏を聴いていると、《三つ子の魂百まで》とか《梅檀は双葉より

芳し（インドの香木せんだんは、芽生えた双葉のころから芳香を放っているように、大成する人は幼児から非常にすぐれていることのたとえ）》といった日本のことわざが自然と思ひ浮かんできます。

古澤さんとヴィドヴィチさん——このお二人には共通点があります。それは、音楽家として、お二人ともきわめて例外的な存在であるという点においてです。どういう点が例外的かと言いますと、彼らには音楽家として必要な資質が最高度に備わっているからです。作品の本質を見極める《洞察力》、そして、それを表現するために必要な《高度な技巧》、また、楽器が本来持っている美しさを最高度に引き出せる《鋭い感受性》。この3つを高い水準において兼ね備えている人は例外中の例外で、まさに天賦の才と言うしかなく、うらやましい限りです。

古澤さんの演奏を聴かれた方は、金属の弦をこすっている冷たさがまったく感じられない、ツヤやかで暖かい音色にウットリされたことでしょう。ヴィドヴィチさんのギターの音も、CDやDVDで聴く限りにおいて、信じられないような美しい音ではないかと想像されます。《天上の音楽》がこの地上に舞い降りてきて、アピカホールで実際に響き渡ってくれることになった幸運に感謝いたします。

元同志社大学文学部講師（音楽学） 鷗川 真

（シリーズ『オーストリア音楽の特質』は、今回お休みさせていただきます。）

西脇ロイヤルホテル

 Daiwa House Group®

兵庫県西脇市西脇 991 番地 〒677-0015
Tel 0795-23-2000 Fax 0795-23-8604

織乃里

和食処 織乃里

【昼】11:30～
オーダーストップ13:30
【夜】17:30～
オーダーストップ21:00

ラフィネ
RAFFINE

レストラン ラフィネ

【昼】11:30～15:00
（最終入店14:00）
【夜】17:30～21:00
（最終入店20:00）



12月11日(日) アピカホール開館15周年記念事業

「15周年記念コンサート」をふりかえって

開館15年の記念コンサートの趣旨は、「市民が主役のコンサート」でした。出演者は4歳から75歳までの市民の方でしたが、趣旨がすべてに活かされた演奏会になりました。これが著名な演奏者によるコンサートになっていけば、音楽が多くの市民に広がることのない一過性の事業に終わってしまっていたでしょう。

当ホールが目指す核となる部分を、15周年記念コンサートは10周年事業に続いて、見事に引き継ぐことになりました。それは、「市民参加による音楽の創造」であり、それを支える「市民の力」といえます。開館時から「聴く人と奏でる人がともに“音楽”をつくりあげるコンサートホール」を目標にしてきた成果であります。当日のアンケート集計結果からも読み取れます。地域に根ざした音楽活動を培ってきた蓄積が、今回の音楽会に集大成された結果ともいえます。

これには、趣旨を理解して協力をいただい

た専門家の先生方の長期間にわたるご指導もさることながら、運営部会、器楽部会、合唱部会からなる実行委員会の皆さんのコンサート開催に向けて、献身的な貢献があったことを見落とせません。なかでも合唱部会のスタッフの方には、6月から半年間毎月曜日におこなわれた合唱指導中、合唱団の陰の力として長期間支えてもらいました。頭が下がる思いです。

アンケート回答の9割以上の方から「よかった」と評価をいただきました。そして、「市民参加の趣意が活かされている」については、同じ割合で「感じた」との感想です。自由記述において、アピカホールの素晴らしさやボランティアによる運営をはじめ知ったというコメントがありました。ホールのことがまだ十分に認知されていない側面があることを反省材料として受けとめています。また、アンケートに答えてもらったソリスト、合唱団のすべての出演者から、舞台に立って

「とてもよかった」との感想をいただきました。

記念コンサートは、概ね成功したといえますが、課題も残っています。混声合唱出演者に対して、指導者による声楽・合唱セミナーの参加意思を問うアンケートでは、大半の方が参加したいと答えておられます。この要望をいかに実現できるか否かについて、実行委員会の反省会で話題となりました。ホールの独自性をだす一つの試みとして検討する価値があります。

また、アピカホールは、市民による協力がなければ、運営は困難です。来場者にボランティアの参加意思についての有無を尋ねまし

たが、残念なことに「関心はあるがその気はない」が半数以上でした。「聴く人と奏でる人がともに“音楽”をつくりあげるコンサートホール」を実質的に高める工夫と知恵が求められています。5年後の20周年記念コンサートを見据えて、まさに正念場にさしかかっているともいえます。

ともあれ、多くの皆様のお蔭で15周年記念事業が成功裏に終わったことは、喜ばしいかぎりです。深く感謝の意をあらわしながら、記念コンサートのご報告とさせていただきます。

館長 宮下 紘一郎

「アピカ・フレッシュコンサート」について

4月22日(日)に開催を予定しておりました第22回「アピカ・フレッシュコンサート」は、開催可能な人数に満たなかったため、開催を中止いたします。

このコンサートは、地元出身で音楽系大学等を卒業される方々の活躍を期待し、支援することを目的とし、昭和62年から開催しています。今回の対象者の皆さまには、再度ご応募いただき若さあふれる演奏をお聴かせいただきたいと思います。

「音楽の話・輪・和・Wa」の原稿募集

「暮らしと音楽」をテーマにして、エッセーを書かれませんか。皆さんの投稿をお待ちしています。期限は6月末で、字数は原稿用紙2枚(800字)です。なお、応募多数の場合は、失礼ながら、編集委員会で採択させていただきます。

総合建設業 一級建築士事務所
国土交通大臣認定鋼構造物製作工場
あんしん住宅瑕疵保険届出事業者

ISO 9001
JQA-QM5608

WAIKI CONSTRUCTION CO.,LTD.

和気建設 株式会社

☎677-0018 西脇市富田町36
電話 0795-22-5651(代)

この春がはじめドキッ!
ヤマハ 春の無料体験教室
予約受付中

あの感動が再び
エレクトーンプレイヤー
安藤禎央 Play On Passion
H24.8.26(日)開演16:30予定

お問い合わせ
ヤマハ特約店 (株)北条楽器
加西市北条町横尾183-5 ☎0790-42-0697

**KOBE
STYLE**
Kitchen & Reform

www.kobe-style.co.jp

〒658-0032
神戸市東灘区向洋町中6-9 TEL:078-857-8424
神戸ファッションマート10F FAX:078-857-8425

防音ルーム
ナサール

無料相談
無料見積

ヨシダ楽器 西脇市西脇983-8 (みなと銀行前)
Tel:(0795)22-2322 Fax:(0795)23-4437

音楽の 話・輪・和・Wa

森は奏でる

宮崎 直美

知っていましたか？

・・・「妖精が
住んでる森」っ

て・・・
ここに訪れる人々に、幸
せを運んでくれるそうで
す。

春・・・
山の神様が目覚める
時・・・
森の木々達が一齐に芽吹
き、野ウサギが庭に遊び
に来てくれます。
ガーデンハウスから聞こ
えるピアノの音色は、庭
の木々達も大喜び。
風に吹かれながら、楽し
いリズムに葉っぱをゆら
ゆら・・・

どこか懐かしいアンティ
ークな椅子に腰掛け、耳
を澄ますと聞こえて来る
のは館内に流れるBGM
に合わせるときのように、
小鳥のさえずりと風の囁
き・・・
ポカポカお日様に、足取
りも軽やか。
こんな季節はカントリー
調のポップスがぴったり。
庭ではチェロやフルート
のガーデンコンサート。

心もウキウキ・・・
「コーヒーを願ひしま
す。」
「はぁーい！」

夏・・・
緑あふれるガーデンで、
アンデス音楽を楽しみま
す。
まるで「マチュピチュ」。

秋から冬・・・
締め切った窓の外は黄金
色に染まります。
木枯らしが吹き始めると、
人恋しくなったバンビが
姿を見せてくれます。
ストーブを囲んで聴くジ
ヤズやクラシックは、心
の灯。
よもやま話に花が咲きま
す。
「熱いコーヒーを願ひ
します。」
「はぁーい！」

誰かがピアノを弾きはじ
め、今も歌声が・・・
豊かな自然に囲まれ、音
楽と人と森の饗宴。
ここは、すべてがやさし
く包み込まれるところ。
フォルクスガーデン黒田
庄・・・ぜひ覗いてみて
ください。
(東はらまうルクスガーデンスタッフ)

APiKa クイズに答えて コンサートに行こう!

6月29日のしばざくらコンサートにご出演いただく、
アナ・ヴィドヴィチさんは、クローア出身ですが、
クローアはどこにあるのでしょうか？

① アメリカ ② ヨーロッパ ③ アジア

♪ 正解者の中から、「アナ・ヴィドヴィチ ギターリサイタル」
のチケットを2名様にプレゼントいたします。

♪ 応募方法：ハガキ・FAX・Eメールにて、クイズの答え(番号)、
住所、氏名、年齢、電話番号、ご感想を明記の上、アピカ
ホールクイズ係宛4月27日(金)までにご応募ください。
当選者は発送をもって発表にかえさせていただきます。

(Vol.63の答え③)

編集後記

記念すべきアピカホール開館15周年が無事終わ
りました。＼(＾－＾)／

ポナンタゴンは、昨年リニューアルして冊子にな
り、年4回の発行を季節に合わせてピンク・ブル
ー・オレンジ・グリーンに色分けしました。如何で
しょうか？毎号お付き合いくださりました読者の皆
さまには、深く感謝したいと思います。

今号、24年度の行事予定を掲載しています。

今年度は、ギター、和楽器オーケストラ、ピアノ
四重奏・・・etc 素敵な調べを聴いて、ゆったり
した時間を楽しみましょう。

これからもアピカホールとともに、『ポナンタゴ
ン』をよろしく願ひします。(Green)

第56回企画展

「横尾少年に会おう
LET'S MEET TADANORI YOKOO BOY!」

4月1日(日)～10月8日(月)

2012.4.1-10.8



開館時間 午前10時～午後5時(入館4時30分まで)
入館料 大人310円(260円)高・大学生210円(160円)
小・中学生110円(80円)()内20名以上団体割引料金
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)・祝日の翌日

小さなまちの小さな美術館

第9回
全国公募

西脇市サムホール大賞展
公募締切 2012年8月1日(水)

西脇市民会館

TEL.0795-22-5715

休館日 火曜日(祝日の場合は翌日)

きて☆みて☆きいて!

第14回「あなたが主役フェスティバル」

と き 7月15日(日)

ところ 市民会館 全館

内 容 ステージ発表、NSKのど自慢、手づくり趣味の市、
100金遊び市(ヨーヨーつり・金魚すくい・くじびきなど)

落語「桂 南光独演会」

と き 10月27日(土) 14:00開演

ところ 市民会館 大ホール 全席自由

入場料 一般 2,000円 高校生以下 1,000円
ペア券 3,500円 (当日各500円増)

入場券発売開始 7月7日(土)9:00～

※ホームページにも掲載していますので是非ご覧ください。

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/shiminkaikan/> E-mail: shiminkaikan@ever.ocn.ne.jp



アピカホール 催しガイド 4月～7月

休館日：毎週水曜日(祝日の場合翌日)

月/日(曜日)	催 物 内 容	時 間	入 場 料 等	主 催・問 合 せ	特集記事
4/7(土)	芽吹きコンサート 箏・ピアノ・声楽	14:00～	一 般 2,000円 高校生以下 1,000円	西脇市いけばな協会 ☎0795-22-3096 ☎0795-23-6234	
4/8(日)	ミニミニコンサート	13:30～	関係者	杉本千穂 ☎0795-32-3121	
4/14(土)	東経135度 北緯35度 × Eckoto Super Stars Live 2012 ～ 兵庫県 箏プレコンサート ～	18:30～	一 般 3,000円 各種会員 2,500円	橋本広子 ☎090-5966-5538	
4/15(日)	ピアノ発表会	15:00～	関係者	内藤 翼 ☎0795-48-9215	
6/29(金)	第118回しばざくらコンサート 「アナ・ヴィドヴィチ ギターリサイタル」	19:00～	一 般 2,000円 高校生以下 1,000円 (当日各500円増)	アピカホール ☎0795-23-9000	P2 P6 P7
7/13(金)	第119回しばざくらコンサート 「和楽器オーケストラあいおい」	19:00～	一 般 2,500円 高校生以下 1,000円 (当日各500円増)	アピカホール ☎0795-23-9000	P3 P5
7/14(土)	アピカ・バースデー企画 和楽器オーケストラあいおい 「和楽器の音色とあそび」	13:00～	中学生～一般 1,000円 5歳～小学生 500円	アピカホール ☎0795-23-9000	P3

- ★主催者の都合により変更になる場合があります。内容についての質問は、各主催者までお問い合わせください。
- ★アピカホール主催の有料コンサートにご来場のお客様に限り、アピカ地下駐車場の3時間無料駐車サービス券をお渡しします。

参加者募集

弦楽アンサンブル教室生

楽譜のしかけを学び、音楽の秘密にせまることで、不思議な音楽の世界にふれます。また、なかも音を重ねて演奏することを通して、1人では味わえないアンサンブルの楽しさを感じてもらいたいと願い教室を開催します。

対 象：小学4年生から高校生

指 導 者：藤井允人(元大阪フィルハーモニー
交響楽団コンサートマスター)

西山枝里(ヴァイオリン)

申込締切：5月21日(月)<必着>

詳しくはアピカホールまでお問い合わせください。TEL(0795)23-9000

児童・混声合唱団員

プロの音楽家による呼吸法や発声法の基礎を学び、歌う楽しさや喜びを体験し、美しいハーモニーを奏でてもらいたいと願い団員を募集します。初心者から経験者までご参加ください。

対 象：児童/小学1年生から6年生
混声/中学1年生から一般

指 導 者：百合花(メゾ・ソプラノ)

申込締切：5月25日(金)<必着>

■編集：ボナンタゴン編集委員会

■発行：西脇市立音楽ホール「アピカホール」

〒677-0015 兵庫県西脇市西脇991

TEL(0795)23-9000 FAX(0795)23-9031

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/apikahall/>

E-mail: apikahall@ever.ocn.ne.jp

ボナンタゴン：こんにちは

(エスぺラント語)

このガイドは2012年3月1日現在の資料を元に編集しており、内容は変更される場合があります。無断での転載を禁じます。